

■ロシア：モスクワ、猛暑で電力消費が前年比 15%増

非営利法人・市場会議（卸電力市場の管理組織）のシカトフ副理事長は 2010 年 8 月 3 日、モスクワ市の至近の 2 週間の電力消費は猛暑のため前年同期比で 15%増加している、と述べた。同じくサンクトペテルブルクで 8.5%増を記録したほか、ロシア中央部の多くの州やカフカス、ボルガ下流地域でも 7~8%、所によって 10%の増加が見られた。ロシア全体でも 7 月最終週の電力消費は前週に比べ 0.6%増、また前年同期比では 6.3%増加した。モスクワ州を含めたモスクワ地域では異常な猛暑が 2 カ月続いているが、同地方の配電会社 MOESK によると、7 月 29 日に 1,162.3 万 kW の最大電力を記録し、今季 3 度目の夏季最大電力の更新となった。ロシアでは現在、住宅へのエアコン設置が多くの地域で進んでおり、その影響が電力消費の動向に現れている、と副理事長は指摘している。また、この天候は電力取引所の価格にも影響を及ぼしている。ロシア欧州部およびウラル地域における 7 月の電力価格は、市場会議の想定で MWh 当たり 850 ルーブル（約 2,550 円）程度とされていたが、実際には 1,000 ルーブルを示したという。